

# 温泉地における まちづくりへの取組み状況

—温泉地域の現状と取組みについての学術調査(2)—

金井雅之（山形大学）

日本温泉地域学会 第10回大会  
長野県高山村「ちゃおるホール」  
2007年11月12日

# 今回の報告の目的



- まちづくりへの取組みが進んでいるのはどういう温泉地か？
- 標記調査のうち、旅館組合を対象としたもののデータを分析
- 調査結果の概要は、別途配布の速報を

# 調査の時期と方法



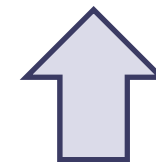
---

実施時期	2007年1月～2月
調査方式	郵送による質問紙調査。30項目。
実施機関	(社) 中央調査社

---

宿泊施設に対する調査

旅館組合に対する調査



今回発表するのは旅館組合に対する調査結果

# 調査の対象

①

・長野・山形・群馬・新潟の各県で

②

・旅館組合に加盟している宿泊施設が10施設以上ある温泉地の

すべての旅館組合が対象

# 標本数と回収率

	全体	長野	山形	群馬	新潟
対象温泉地	56	21	12	9	14
対象組合	62	26	13	9	14
回収組合	55	20	12	9	14
回収温泉地(*)	51	17	11	9	14
回収温泉地率	91%	81%	92%	100%	100%

(\*)旅館組合が2つ以上ある温泉地は、回収できた組合のうち最も宿泊施設数の多い組合のデータで代表。

# リサーチ・クエスチョン & 分析モデル



まちづくりへの取組みが進んでいる  
のはどういう温泉地か？

## 組織活性

- ・理事会が月に1回以上開催
- ・青年部あり
- ・源泉管理組織あり

## 地域内交流

- ・まちづくりの地域一体組織あり
- ・地域内の他業種との交流

## 地域外交流

- ・外部講師による講習会
- ・他の温泉地との交流会

## 統制要因

- ・街並みや温泉情緒を売りにしていきたい
- ・宿泊施設数が21軒以上
- ・市町村マスタープランがある

温泉地独自の  
まちづくり計画あり

# 変数相互の関係

## クラスター分析

回答パターンの類似性による変数の分類

### 独自計画

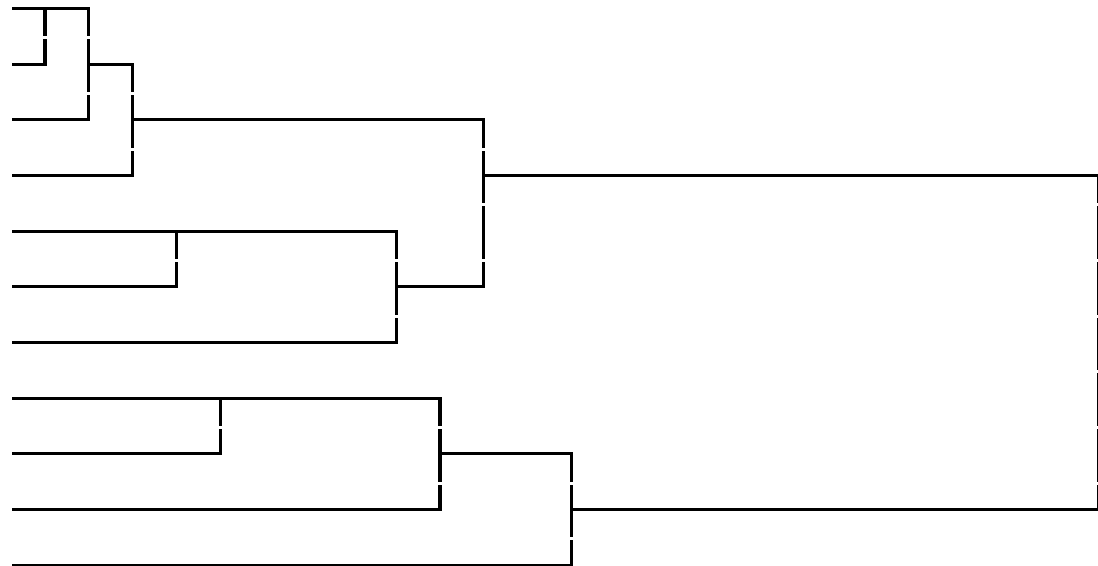
源泉管理組織  
地域一体組織  
青年部

### SP街並

市町村MP  
外部講師

### 他業種交流

他温泉地交流  
理事会  
宿泊施設数



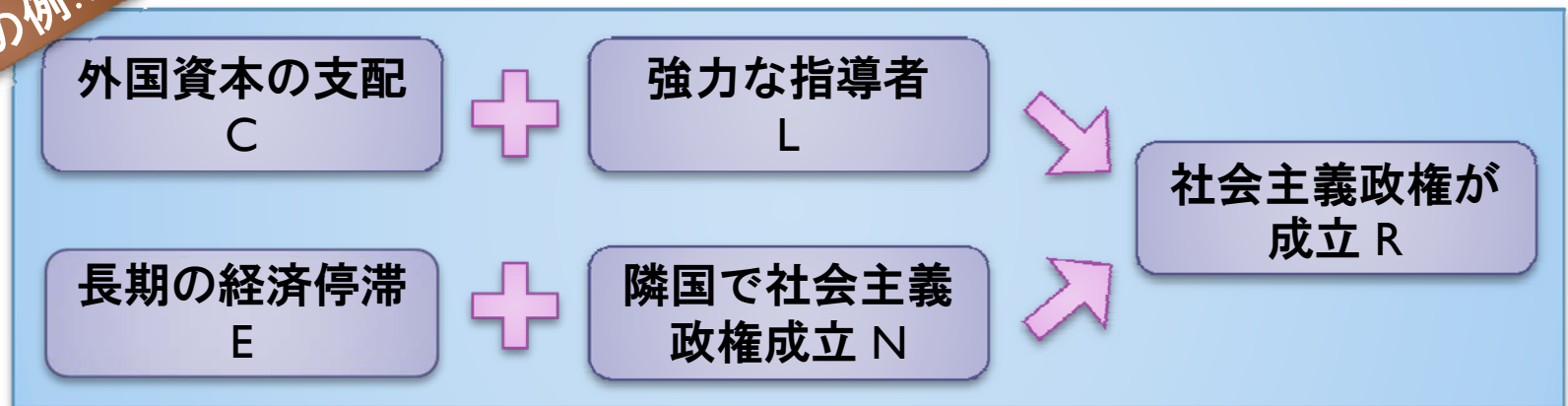
✓ 独自計画は、源泉管理組織や地域一体組織と関連

✓ 街並みを売りにするかどうかは、市町村MPや外部講師と関連

# 質的比較分析（QCA）

- 比較的少数の事例の因果メカニズムを客観的に分析する手法
- ある結果が生じるための原因条件の複雑な組合せを整理

架空の例...



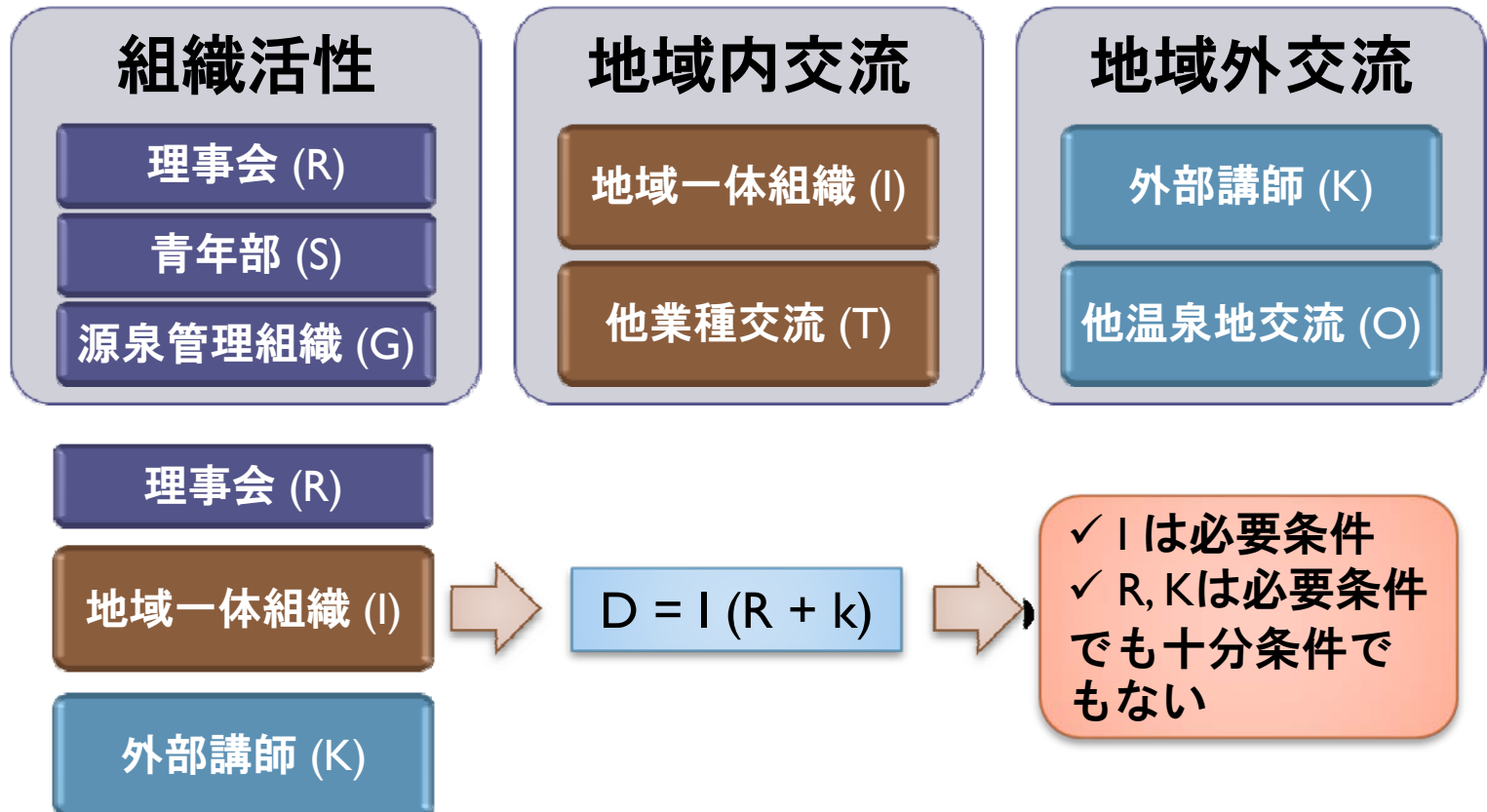
$$R = CL + EN$$

（鹿又他編 2001:7-8）



# 原因変数の絞り込み(1)

1. 原因と考える3つの要因から1つずつ変数を組み合わせ、最小積和形を求める。
2. 各変数が必要条件または十分条件になっているかを調べる。



# 原因変数の絞り込み(2)

要因	評価	変数	必要	十分	モデル数
組織活性	○	R 理事会	2(*)	0	4
		S 青年部	1	0	4
	◎	G 源泉管理組織	3	1	4
地域内交流	○	I 地域一体組織	4	0	6
		T 他業種交流	0	0	6
地域外交流		K 外部講師	0	0	6
		O 他温泉地交流	1	0	6

(\*) 要旨に記載した「3」は誤りでした。

因果において重要（＝必要または十分条件になることが多い）  
なのは

- ・ 理事会 (R)
- ・ 源泉管理組織 (G)
- ・ 地域一体組織 (I)

# RGIモデルの真理表

理事会 R	源泉管理 G	地域一体 I	独自計画 D	計画あり数	事例数
0	0	0	-	-	0
0	0	1	0	1	3
0	1	0	0	1	3
0	1	1	1	13	15
1	0	0	0	0	1
1	0	1	1	1	1
1	1	0	1	2	2
1	1	1	1	19	20

標準積和形



$$D = rGI + Rgl + Rgi + RGI$$

# 最小積和形の導出

1.主項導出表

大文字数	2	3
最小項	rGl Rgl RGi	RGI
主項		GI RI RG

2.主項選択表

主項	最小項			
	rGl	Rgl	RGi	RGI
GI	◎			○
RI		◎		○
RG			◎	○

◎は必須項

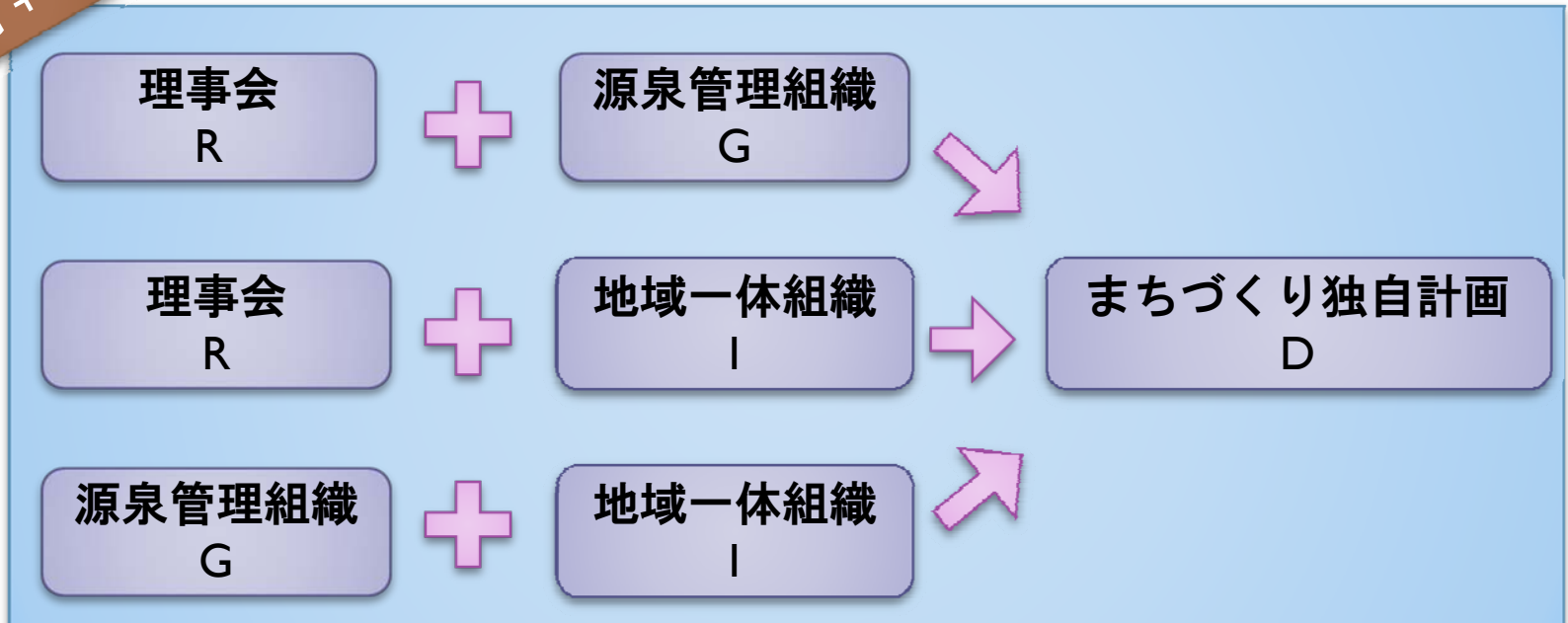
最小積和形



$$D = RG + RI + GI$$

# その意味は...

$$D = RG + RI + GI$$



R,G,Iのうちいずれか2つが同時に存在すれば、必ず独自計画が存在する

3つの条件は、まちづくりへの取組みに対して同等に重要である

# まとめと考察

- **組織活性と地域内交流**はまちづくり活動に影響を与えるが、**地域外交流**はあまり影響がない
- **理事会と源泉管理組織と地域一体組織**はまちづくりに同等に影響を与える
- これらはいずれも**温泉地内部**での結束力やまとまりのよさに関係する
- 特に**源泉管理組織**は単独でも十分条件になりうる。コモンズ論と関係か？

# 参考文献

- 鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二編，2001，『質的比較分析』 ミネルヴァ書房。
- Ragin, Charles C., 1987, *The Comparative Method: Moving Beyond Qualitative and Quantitative Strategies*, University of California Press. (=1993, 鹿又伸夫監訳『社会科学における比較研究——質的分析と量的分析の統合にむけて』 ミネルヴァ書房。)
- Ragin, Charles C., Kriss A. Drass, and Sean Davey, 2006, *Fuzzy-Set/Qualitative Comparative Analysis 2.0*, Tucson, Arizona: Department of Sociology, University of Arizona.

# 単純集計表

変数	基準	Yes (%)	No (%)	%の基数
独自計画	ありor策定中	79.2	20.8	48
理事会	月1回以上	47.1	52.9	51
青年部	あり	78.0	22.0	50
源泉管理組織	あり	86.3	13.7	51
地域一体組織	ありor準備中	85.4	14.6	48
他業種交流	昨年1回以上	51.0	49.0	51
外部講師	昨年1回以上	60.8	39.2	51
他温泉地交流	昨年1回以上	43.1	56.9	51
SP街並	はい	62.7	37.3	51
宿泊施設数	組合加盟21軒以上	47.1	52.9	51
市町村MP	ありor策定中	68.6	31.4	51



# 原因変数絞り込み12モデル

No	モデル	事例数	計画あり数	最小積和形	必要	十分
1	RIK	45	37	$I(k + R)$	I	
2	RIO	45	37	$R(I + O)$	R	
3	RTK	48	38	$R(T + K)$	R	
4	RTO	48	38	$R + TO$		
5	SIK	44	36	$I(k + s)$	I	
6	SIO	44	36	$Sio + slo + SIO$		
7	STK	47	37	$Sk + tK$		
8	STO	45	37	SO	S, O	
9	GIK	45	37	$I(k + G)$	I	
10	GIO	45	37	GI	G, I	
11	GTK	48	38	G	G	G
12	GTO	48	38	$G(t + O)$	G	

# 参考：RGIモデルの 二項ロジスティック分析

独立変数	回帰係数	標準誤差	有意確率	オッズ比
理事会 (R)	1.760	1.077	.102	5.812
源泉管理組織 (G)	2.449	1.133	.031	11.575
地域一体組織 (I)	2.207	1.087	.042	9.090
(定数)	-2.887	1.432	.044	.056

従属変数：独自計画 (D)

$R^2(\text{Cox \& Snell}) = .240$ ,  $\chi^2(\text{df} = 1, N = 45) = 12.333$ ,  $p = .006$

源泉管理組織 (G)と地域一体組織(I)が5%有意。  
理事会(R)は有意ではない。

モデル全体のあてはまりはよい。